

『時事直言』 No.823 2013年4月18日

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>

時事直言 携帯サイト：<http://mobile.chokugen.com>

FAX：03-3955-6466



時事評論家 増田俊男

誕生日に当たって

本日4月18日は私の誕生日。

本日の「ラヂオもりおか」（毎日月曜～金曜午前8：20～30）で、私の誕生日にまつわる偉大な人物3名についてお話ししました。

4月18日の偉人を時代の古い順にご紹介します。最初は「柿本人麻呂」です。

私は人麻呂が妻を亡くした後の晩年の歌が好きです。

「夏草の想いしなへて偲ぶらむ、妹が門見む、なびけこの山」。

奥さん思いだったんですね。

私のホームページにアインシュタインの言葉が出ていますのでお読みください。

大正初年にアインシュタインがノーベル賞を受賞する前に日本に立ち寄り40日間滞在しましたが、この間日本の各地を見て回り、平和で調和を重んじる日本の文化に大変感銘しました。何と云っても最も敬意の念を覚えたのは万世一系の天皇の国でした。君主や元首が万世一系の国は世界中で日本だけからです。

そこで「何時か世界が戦争や争いに疲れた時、世界はアジアの富士の高根の元にある日本と言う崇高な国が存在していることに気付き、日本を世界の盟主に推すだろう。このような日本と言う国をこの世に与えてくれたことを神に感謝する」（要約）と書き残したことになっているのですが、この言葉はアインシュタインでは無く明治の元老でドイツに憲法学習に行った海江田信義とドイツの憲法学者シュタインとの会話をまとめたものであるという説があります（こちらの方が本当らしい）。4月18日はアインシュタインの誕生日では無く命日です。

次の同誕生日人は、私が慶応義塾大学を卒業して就職した東急グループ（コンツェルン）の創始者であった五島慶太当時会長（故人）です。

東急の就職試験には50名の採用に800名が応募するという狭き門でした。

私は幸い面接試験までこぎつけました。面接は20名が一緒に受けます。

私は私に質問の声がかかる前に手を挙げました。担当の係が「なんですか、そこの333番さん」（私の受験番号は333番だった）と思った通り私に声がかかりました。そこで私は「僕は五島会長と同じ4月18日生まれです。だから僕は東急に入る為に生まれて来たも同然です」と言ったところ、この一言を聞いたワンマンの五島会長が係に何か耳打ちしました。結果その場で合格決定。

その後東急グループの東急エージェンシーに配属されましたが、会長には大変目を掛けていただき、私は寝食を惜しまず一生懸命東急の為に、いや会長の為に尽くしました。会長がお亡くなりになった3日後五島慶太の東急を辞めさせていただきました。当時はM&Aという言葉さえありませんでしたが、会長は有望な会社で経営者が悪いところを見つけると強引に買収しました。私が在職中だけで135社が傘下にありました。会長の合理性を貫く、燃えるような思いを私は身をもって感じ、身を震わしたものでした。会長は当時「強盗慶太」と呼ばれましたが、今にしてみればアメリカの「ハゲタカ・ファンド」の前身のようなものです。

私の人生で（私の妻でありボスの眞理子を除いては）上記の3名から最も大きな影響を受けました。本誌読者の皆さまあつての増田俊男です。誕生日に当たって深く感謝致します。

、、、誕生日だからと言って、協力金をご請求しているわけではありませんで、。

とにかくありがとうございます。

増田俊男の「時事直言」ご協力金お申込み受付について

年間を通じて増田俊男の「時事直言」ご協力金（1口¥3,000-）を受付けております。全国の皆様からのサポートで世界中から情報を得ることが出来き、皆様へ発信させて頂いております。

ご協力頂ける場合は弊社までご連絡（03-3955-6686）頂くか

HP（www.chokugen.com）からお申込み下さい。何卒、宜しくお願い申し上げます。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前に株式会社増田俊男事務所（TEL03-3955-6686）までお知らせ下さい。